



歴史情緒の宿場町へ。

東海道五十三次の旧街道と宿場町へ。ひととき、タイムスリップの旅。

東海道五十三次の51番目の宿場町「石部宿」。その昔、「京立ち石部泊り」といわれ、江戸・伊勢へ向かう旅人で大いに賑わいをみせていたとか。そんな歴史のひとコマが再現された場所を巡る、タイムスリップの旅をご紹介します。



旅人たちの足音が聞こえてきそうな、風情ある旧街道を歩く。

JR石部駅を下車し、少し歩くと定規で線を引いたかのような、まっすぐ伸びた街道に入ります。ここが旧東海道。往時には、本陣2軒、旅籠32軒を含む458軒が街道の両脇約1.6キロメートルにわたって建ち並んでいたとか。現在では本陣跡や高札場跡などがわずかに残っているだけですが、それでもかつての宿場の雰囲気は伝わってきます。「旅人たちはここでわらじを脱ぎ、旅の疲れを癒したのだろうか。」ぶらぶらと散策しつつ、そのような光景に想いを馳せてみるのも一興です。



今もなお、風情を感じさせる旧街道。

宿場町をそのまま「石部宿場の里」へ。江戸の暮らしがここにある。

歴史へのノスタルジーをもっと感じるために、「石部宿場の里」へ。旧街道から離れ、南の方へテクテクと歩いて約20分、雨山文化運動公園の敷地内にあるちょっとしたテーマパークです。入口の関所を抜けると、目の前に広がるのは、江戸時代末期の農家や商家、旅籠、茶店などを再現したまち並み。どの建物も細部まで作り込まれ、間口が狭く、奥行きは広いといった俗に「うなぎの寝床」と呼ばれる当時の建築様式も忠実に再現されています。旅籠「いしべ屋」に入れば、洗面桶やかまどなどの道具もリアルで、本当に江戸時代へ迷い込んだような錯覚を覚えるかもしれません。



細部にまで凝った建物の数々。まさに江戸時代そのまま。



「東海道石部宿歴史民俗資料館」は見ごたえたっぷり。

歴史を感じたら、次は歴史を学ぶ...ということで「石部宿場の里」に隣接する民俗資料館を訪ねます。館内に入ってまず目を引くのは江戸時代の石部宿のまち並みをミニチュアにした模型。2年の歳月を要したというだけあって、細かなところまでリアルに再現され、いくら眺めても飽きないほど。後ろ髪を引かれつつ先に進むと、奥の展示室にも興味をそそる展示物が満載。小島本陣模型や小島本陣に残されていた関札や宿帳、当時大名が乗っていた駕籠や、旅人たちが残した水筒や道中合羽などの諸道具の数々...あつという間に時間が過ぎていきます。



格式を誇った小島本陣も20分の1ミニチュア模型で再現されています。

ふたたび、旧街道へ。道の先にはレトロなトンネルが待っている。

石部宿の歴史をひとしきり体験した後、再び旧街道へ戻り、三雲方面へ。道中、昔ながらの佇まいを残す酒蔵に会いつつ、どんどんと進んで行くと、その先に現れたのは、石造りのレトロなトンネル。天井川である大沙川を通るこの「大沙川隧道」MAP D-4は、明治17年に県下最初の道路トンネルとして開通されました。長さは約16.4m、高さ約4.6mとスケールはやや小ぶり。しかし造形は見事で、天井は半円形の美しいアーチを描き、壁は岩が切石積みで、トンネルが持つ重厚な雰囲気を醸し出しています。「吉永のマンボ」という愛称で地元の人々に親しまれています。



重要な土木遺産として「日本の近代土木遺産」に登録されています。

旧街道を見守り続けた、樹齢750年の巨木。

大沙川隧道の上に根を生やしているのが、樹高約26m、樹齢約750年、地元では「弘法杉」MAP D-4と呼ばれている大杉。その昔、弘法大師がここを通りかかった際に、この場所で食事をとり、その時使った杉箸を刺したところ、成長してこのような大杉になったという言い伝えからこの名がつけられました。過去には2本並んで立っていたことから二本杉ともいわれましたが、現在は1本だけが残り。悠然と立つその姿は、街道を行く旅人たちを見守っているかのようです。



根本に建てられた小屋には、弘法大師の仏像が祀られています。

Information

石部宿場の里 MAP A-3
 <ishibe-syukubanosato>
 江戸時代、東海道五十三次の51番目の宿場町として栄えた「石部宿」の様子を再現したテーマパーク。

東海道石部宿歴史民俗資料館 MAP A-3
 <ishibe-syuku-museum>
 石部宿の歴史を見て、学んで、楽しめる資料館。館内には市の貴重な文化遺産の数々が展示されています。


※両施設共通
 ■住所/ 湖南市雨山2-1-1
 ■料金/ 大人320円(260円) 小人160円(110円) ()内は団体料金(20名以上)
 ■営業時間/ 9:00~16:30
 ■休館日/ 月曜日、祝日の翌日(土日曜日を除く) 年末年始(12月28日~1月4日)

■駐車場/ 200台
 ■公共交通機関/ JR草津線「石部駅」より車で約10分もしくは徒歩約20分
 ■お問い合わせ/ 0748-77-5400

ボランティアガイドより

湖南といえばやはり三山が有名ですが、最近では旧東海道も観光客の皆様の間で人気スポットとなっています。というも、ウォーキングを楽しみに来られる方が実に多いのです。歴史の名残を感じさせる街道、ほのぼのした田園、静かな自然...都会で歩くのとはまた違った気持ちよさが味わえますよ。

石部宿をガイドする「鈴木克忠さん」



H!NT 旅のヒント

所要時間

JR石部駅 徒歩約20分 約1km
 石部宿歴史民俗資料館 徒歩約70分 約4km
 地元酒蔵 徒歩約20分 約2km
 大沙川隧道と弘法杉 徒歩約20分 約2km
 JR三雲駅



ベストシーズン

10月下旬に「東海道石部宿まつり・楽市楽座」というイベントが開催されます。当日は特産品即売市、模擬店が並び、江戸時代の旅人にタイムトリップしたかのような体験ができるイベントも行われる予定です。子どもからお年寄りまで幅広く楽しめます。

ちょっと時間があれば、こちらにも。

夏見の里 MAP C-4
 江戸時代に石部宿と水口宿の間に設けられていた休憩所。茶店ではひんやりと冷たい名物の「ところん」が売られ、江戸や京へ向かう旅人たちに賑わいをみせていたそうです。現在では旅人たちの目を和ませた藤棚など、当時の名残をわずかに見ることができます。

横田の渡し MAP E-4
 「東海道十三渡し」の一つで、古くから街道の要所として、夏は舟渡し、冬は土橋をかけて往来が行われました。湖南市三雲と甲賀市水口町東の西端までの間(約320m)を舟で渡ったようです。明治の初めごろまで、渡し舟が活躍していました。

※東海道十三渡し:東海道五十三次間にあった草津川・横田川「近江」・桑名海「伊勢」・荒井海「遠江」・天竜川・大井川・瀬戸川・安倍川・興津川・富士川「駿河」・酒匂川・馬入川「相模」・六郷川「武蔵」の十三か所をいいます。